



できごと

前期6月26日(月)～7月1日(土)と、後期9月25日(月)～10月4日(水)の日曜を除く15日間、(社)日本図書館協会主催の第26回児童図書館員養成講座が開催されました。この講座は、日本図書館協会個人会員で、5年以上の図書館員経験をもつ司書有資格者であることなど、受講に条件があります。また、受講生は事前に提出する書類審査により20名が選考されます。

講座の募集要項や講座内容の詳細は、(社)日本図書館協会のホームページの「JLA 主催行事 2006年(終了分)」(<http://www.jla.or.jp/jlaevent2006.html>)でごらんください。(裏面にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

「一番新しいクリスマスとお正月の本」

(2005年以降に出版された本)

「ブラティスラヴァ世界絵本原画展に寄せて」

新着図書も常時展示中です。

イベント情報

子ども図書研究室講座

作ってみよう 手袋人形 演じてみよう 手遊び・わらべ歌

講師：久保節子氏(常葉学園短期大学非常勤講師)

日時：土曜コース

12/2(土)10:00～12:00(必修)、13:00～15:00(希望者のみ)

1/13(土)10:00～12:00(必修)

水曜コース

12/6(水)10:00～12:00(必修)、13:00～15:00(希望者のみ)

1/17(水)10:00～12:00(必修)

会場：静岡県立中央図書館

持物：材料費(クマ700円/ブタ500円)・木綿針・はさみ

定員：各コース20名(15歳以上・1、2回目とも参加可能な方)

申込方法：チラシの申込票・電話・Eメールにて受付

電話：054-262-1246

Eメール：mailmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

新着図書から

絵本

『ピリカ、おかあさんへの旅』



越智典子 / 文
沢田としき / 絵
福音館書店

2006年7月

ピリカはメスの鮭。大きな海の中で、たくさんの生き物たちと暮らしていました。ある日、ピリカは夢の中で、なつかしい匂いと誰かの呼び声を感じます。その匂いと声に引き寄せられるように、ピリカと鮭の群れは海を泳ぎ、川へと戻っていきました。

鮭の産卵をもとにした絵本。写実的な絵は臨場感にあふれ、自然の厳しさや生存の難しさを正確に表現している。また鮭の視点で進む、一体感のあるストーリーは読者を物語にくいぐいと引き込む。【幼児から】 (渡辺勝)

知識

『親子でおさらい』



はじめてのテーブルマナー』
FamilyセレクトBOOKS
松本繁美 / 指導
主婦の友社
2006年9月

子どもに向けて書かれたテーブルマナーの本。姿勢や箸の持ち方から始まり、和食と洋食のマナーについて説明する。内容はかなり深く、諸外国の食文化についてのコラムもあり、食事の際にたてる音に対する反応や、マナーの比較など、大人にも読み応えがある。書名に「親子でおさらい」とあるのに、大人向けの文章はすべて「お母さんへ」である点は疑問だが、写真が多く読みやすい。テーブルマナーに興味を持ち、本書の内容を理解できる小学校高学年くらいにおすすめしたい。(鈴木)

第26回 児童図書館員養成講座 報告

講座は前期は主に理論中心、後期は実践発表を含んだ講義であった。講義のうちで印象に残ったいくつかの点のみ記載する。

乳児と絵本の講義(中村 榎子氏:青山学院女子短期大学・立教女学院短期大学)では、幼稚園や保育園の長い勤務経験から、乳幼児の成長発達に沿った絵本の具体的な紹介があった。

0、1歳は、「あっ、あっ」と指さしながら発声して言葉を溜め込んでいく。そのとき周囲の大人がどう理解してすくってあげるかで、その後の成長に大きく影響する。この時期に『くだもの』(平山和子/さく 福音館書店)などを見せながら話しかけると、手をのばしてくる。

1、2歳では、意味を聞き分けられるので、『いないいないばあ』(松谷みよこ/さく 童心社)の後、『ぞうくんのさんぽ』(なかのひろたか/さく・え 福音館書店)『おおきなかぶ』(A・トルストイ/再話 福音館書店)等に興味を示す。

2、3歳では、過去形や「うそ」がわかるので、ごっこ遊びができる。『おにぎり』(平山英三/ぶん 福音館書店)『てぶくろ』(エウゲーニー・M・ラチョフ/え 福音館書店)も楽しめる。

3、4歳は、自分でおはなしが作れるようになり、理解できる世界が広がる。『へんなおにぎり』(長新太/さく 福音館書店)などのナンセンス絵本も3歳頃からおもしろくなり、絵本の細かいところもよく見るようになる。

4、5歳は生活体験が豊富になるため、科学絵本を楽しみ、5、6歳では絵のないお話も聞けるようになる。

ブックトークの講義(張替恵子氏:東京子ども図書館)では、本やテーマの選び方について実践的なヒントを多く含んだご指導があった。本は、自分が本当に好きな本をあらかじめ何度も読み込んで、キーワードを決めておくと

有益である。通常では手にとられにくい本に脚光をあてるのも一案で、取り合わせにも配慮する。永年同じテーマを持って磨き続けることも大切で、関連する本を見つけたら入れ替えるなど、新刊書に常に注意を払う必要もある。

本を紹介するときは、本と本のつなぎ目の言葉に気をつけることなどの大切さを、貴重な実演で示された。

選書・蔵書構成の講義(汐崎順子氏:慶應義塾大学大学院)では、特に新刊書の選書について、質のよいコレクションを保持するために基準の内容を再確認するよう、提案があった。

図書館のコレクションでは、読みつがれた児童書は必ず各館で所蔵することが必須条件で、たとえ汚破損しても絶版の本は廃棄せずに保存することが求められる。また新刊書は充分検討し、少ない予算の中で、児童書の蔵書をどう構築するか、厳密な選書が必要である。書店とは根本的に違う品揃えであることを念頭に、再考することができた。

講座では多くの必読参考文献が示されたが、その中でも多くの講師が言及された「読みつがれた児童書の価値を知る」「選書の目を養うものさしを持つ」ための資料を紹介する。

所蔵資料から

案内 『たのしく読める日本児童文学』



戦前編、戦後編
鳥越信/編著
ミネルヴァ書房
2004年4月

各分野から厳選した90年代までの児童書(絵本とマンガを除く)220冊と理論書20冊の必読書を、1冊見開き2頁で解説。あらすじや読み方、テキストからの一部引用などを掲載し、既に絶版の場合は入手方法も紹介している。児童文学の入門書として、また児童書を読む入口としても、是非読んでほしい1冊。

(宮崎)

*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。